

## 7 車椅子

「介護保険を使って電動車椅子をレンタルし、スーパーに買い物に行ってきた。楽やったわ」。ここ数年が治療のため入院を繰り返しながらも自転車で買い物に行っていた年配の婦人が、友人である私の妻に語った言葉だ。妻は電動車椅子の利用者である。

「高齢者の買い物について話し合う会」に関する記事が、「大阪の社会福祉」の2017年5月号に掲載されていた。『今は大丈夫だけど、2〜3年後、もし自転車に乗れなくなったら困る』といった切実な悩みが共有された」とあった。「話し合う会」では、宅配サービスの惣菜試食会も行われたそうだが、電動車椅子の試乗体験会はなかった。

高齢者の電動車椅子利用が、「健康寿命」と「平均寿命」の間で起きる家庭内閉じこもり状態を回避させるには確信する。

地下鉄天王寺駅で電車乗降時に、車椅子ユーザーのためにスロープで介助してくれる職員の方に、一日あたりのスロープ利用者数を尋ねた。「多い日で80人。少ない日で30人程。身障者より高齢者の方が多いですよ」。利用者数は、私の日頃の実感より多かったが、1時間あたりになれば6人程。それも高齢者と身障者を合わせたの数字とすれば、まだまだ少ない。地下鉄天王寺駅の一日平均乗車人員は、2015年で約13万人だ。

駅、ビル、商店街から離れた商店

や飲食店では入口に段差があるとところが多いため、車椅子ユーザーにとっては利用しづらい。高齢者の車椅子ユーザーが増えれば、社会のバリアフリー化は確実に加速度的に進むだろう。

発表当初から実現が疑問視される安倍内閣のGNP目標600兆円政策。「健康寿命」を過ぎた高齢者の方も、車椅子に乗って街に出てお金を使えるようになれば、目標に近づくのではないか。段差解消（スロープ設置）のための補助金も有効ではないか。

超高齢社会の先頭を切る日本で、私の大きな願いは、「車椅子利用は想定内」という豊かな社会を、世界に示していくことである。

